

ごあいさつ



理事長 **岡部 憲昭**

皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より遠賀信用金庫に対し格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

今年も、地域社会に貢献する遠賀信用金庫の取組みをご紹介するディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2024』が出来上がりました。メチャくんファミリーの助けを借りながら分かりやすく説明していますので、ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、我が国経済は、コロナ禍により深刻な影響を受けていた社会経済活動の正常化が進み、雇用や所得環境の改善などから緩やかな回復が続いています。他方、海外経済の動向や中東地域などにおける地政学的リスク、物価の動向など我が国経済を巡る不確実性が高まっており、当地域の中小企業や住民の皆さまへの影響が懸念されるところです。また、構造的な問題である人口減少や少子高齢化は、中小・零細企業を中心に事業継続に関わる重要な問題となっております。そのような中で、当金庫はお客様へのご支援を最優先課題として全力で取り組んでおります。

昨年度の取組みを振り返ってみますと、地域貢献活動におきまして、フードドライブを活用した子ども食堂への食料品支援、保育園での交通安全教室の開催、「おんしん講演会」や「ふれあい旅行」の開催、能登半島地震の災害義援金の取扱いなどに取り組まれました。また、「しんきん合同商談会」や「よい仕事おこしフェア」を活用した地域ブランドの発信、産学官連携活動など、地域の活性化のために、各方面に活動の幅を広げてまいりました。

令和5年度の決算につきましては、市場環境の急速な変化により増加した有価証券の含み損等の処理を積極的かつ前向きに対応したことから、当期利益は5億円程度にとどまりましたが、貸出金が大幅に増加するなど順調な業績を背景に本業の利益は増加するなど、比較的良好な決算を収めることができました。なお、金融機関の健全性を示す自己資本比率は13.98%と、国が定める基準(4%)を大きく上回っております。不良債権比率も3.30%と、依然低水準を維持しております。

本年3月、日本銀行が大規模な金融緩和政策を見直して17年振りに金利を引き上げ、いよいよ日本も「金利のある世界」へ踏み出しました。当金庫も「金利のある世界」への対応を進めることとなりますが、同時に金融経済環境の変化で経営が厳しくなるお取引先に対しては、「おんしんサポートチーム」を中心とした全店を挙げての支援を行います。また、お客様の資産形成支援につきましては、新たに組織した「ライフアドバイザー制度」を活用して強化してまいります。

遠賀信用金庫は今年度75周年を迎えます。これまでの永年のご愛顧に感謝し、引き続き地域の皆さまの期待に応えるため、役職員が一丸となって「スモール イズ ナイス」の矜持を胸に、中期経営計画に掲げた「すべての職員が、経営理念の実践により、地域の為に働いていると日々実感できる金融機関」を目指し、邁進してまいります。

今後とも、遠賀信用金庫に対しまして格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げまして、ごあいさつといたします。

令和6年7月